

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/11

テーマ模索の週に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	<p>中立派・ハト派の意見に注意</p> <p>予想レンジ: 83.50 ~ 87.00 円</p>	2-4
カナダ/円	➡	<p>BOC声明に注目</p> <p>予想レンジ: 87.20~ 91.50 円</p>	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 4/4~8の主な推移



4/4 Monday	東京市場中は手掛かり材料難で84円台前半でもみ合ったが、夕方に入ってクロス円(ユーロ/円など)が軟化すると、ドル/円も連れてジリ安。さらに、米国市場序盤にロックハート・アトランタ連銀総裁が「米国のインフレ率は低水準に抑えられる」との見方を示したことが報じられると、早期金融引き締め観測が後退し、83.85円の安値を付けた(①)。
4/5 Tuesday	朝方に米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が講演にて「インフレ動向には極めて慎重な監視が必要」などとインフレを警戒していると受け止められる発言をしたことを受け、ドル/円は84.49円まで上昇。ただ、同時に「インフレの上昇は一時的」と述べていたこともあり、その後は横ばいで推移した。しかし、米国市場序盤にこの日発表の米3月ISM非製造業景況指数が「予想を上回る結果になる」との噂が広がると、ドル/円も上昇。23時に発表された同景況指数が57.3と予想(59.5)を下回ると、発表直後のドル/円は下落したが、クロス円が堅調に推移していたことを受けてすぐに反発した。27時に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録では、一部のメンバーが「力強い景気回復や高いインフレ、インフレ期待の高まりを受け、債券買い取りの規模やペースを減少させることが可能」とした一方、他の一部メンバーが「来年以降の異例の政策緩和が適切である可能性」を指摘するなど、意見が大きく分かれていた。これを受けて発表直後のドル/円は乱高下したが、その後は特にタカ派の意見を材料視した向きによるドル買い等によってドル/円は一段と上昇した(②)。
4/6 Wednesday	前日のNY市場からの上昇の流れを引き継ぎ、ドル/円は11時前に85.53円の高値を付けた(③)。しかし、夕方にドル/スイスでドル安が急激に進んだことを受け、ドル/円は軟化。さらにその後、ポンド/円が急落すると、ドル/円の下落に拍車がかかり、84.83円まで値を下げた。しかし、その後は米国債利回りの上昇を手掛かりにドル/円は85円台半ばまで反発した。
4/7 Thursday	アジア市場から欧州市場にかけて、ユーロ/円でユーロ安・円高が進むとドル/円でも円高が進行。ECBが利上げを決定し、トリシェECB総裁が「インフレ見通しのリスクは上向き」などと発言したことでユーロ/円が上昇すると、ドル/円も連れ高となったが、同総裁が「(本日の利上げを)連続利上げの初回として決定してはいない」と述べたことでユーロ/円が反落すると、ドル/円は再び軟化。さらに、23時32分頃に宮城県で震度6強の地震が発生し津波警報が発令されると、NYダウ平均が大きく下落し、円は全面的に上昇。ドル/円は84.59円まで急落した(④)。ただし、津波警報が解除されるとドル/円は反発した。
4/8 Friday	実質ゴトー(5・10)日のドル需要などを背景に東京序盤にドル/円は上昇。しかしその後は上値の重い展開。NY市場に入ると、米予算協議の難航を背景に米連邦政府機関の一時閉鎖の可能性を嫌気したドル売りなどを背景にドル/円は軟化した(⑤)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

今週の為替市場は全般的にイベントが多く、テーマを模索する週になりそうだ。

今週の米国では12日には2月貿易収支および3月財政収支、13日には3月小売売上高や米地区連銀経済報告(ページブック)、14日には週次の新規失業保険申請件数や3月生産者物価指数、15日には3月消費者物価指数や4月ニューヨーク連銀製造業景気指数、3月鉱工業生産、4月シガン大消費者信頼感指数・速報値など、注目度が比較的高い経済指標の発表が予定されている。また、米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーによる講演予定も多い。ドル/円相場では米国の量的緩和からの出口戦略開始の時期についての思惑が引き続き交錯する見通しで、予想を上回る米経済指標の結果や米要人によるタカ派的な発言はドル買い材料に、予想を下回る米経済指標の結果や米要人が出口戦略開始に慎重な見方をした場合にはドル売り材料になってくる可能性がある。

ただ、3月下旬以降、タカ派的な要人発言に対してドル/円はやや前のめり気味に買われる、という事が続いていたものの、先週からはタカ派として知られるメンバーの発言に対してドルの反応は鈍いものになってきている。今週の要人発言については、中立派やハト派として知られるメンバーが金融引き締めについて比較的前向きな発言をするなど、タカ派でないメンバーが踏み込んだ発言をした場合に強く材料視される、という展開になると見る。

また、今週から米主要企業の決算発表が本格化する。NYダウ平均はかなり高い水準でもみ合いとなっているが、こうした企業決算を受けて再び上昇するようならば、クロス円が上昇し、ドル/円にも上昇圧力が掛かる可能性がある。一方、弱めの決算が目立ち、NYダウ平均が軟化すれば、クロス円主導でドル/円に下げ圧力が掛かる見通しだ。この他、ポルトガル支援に向けたユーロ圏の動きや、上昇続きの原油価格の動向なども、ユーロ/円やユーロ/ドルを經由してドル/円相場の波乱要因となってくると考えられよう。様々な材料が混在するだけに、予断を持たずに方向感を見定めていきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 83.50~87.00円)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

テクニカル分析

●ドル/円 4/08週足引値:84.69円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値85.53円～安値83.85円と1円68銭の狭い値幅の一週間となった。

先週は83円台後半で取引が始まったが、直近戻り高値の85.53円(4/06)を見るなど上昇の動きを見せた。週末の引値84.69円は、200日線(83.52、4/08)、60日線(82.61円、4/08)、40日線(82.41円、4/08)、20日線(81.25円、4/08)を上回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(4/08時点)は上限が85.95円、下限が78.53円であり、バンドの上限は上昇、下限は下落とバンド幅は拡大している。

週足チャート(図1)では、先週は上ヒゲの伸びた陽線となった。2007年7月の123.63円からの上値抵抗線(先週は85.64円)近辺まで先週は上昇した。今週は85.44円にあり、注意したいところだ。

日足チャート(図2)では、上昇⇒水曜日ピーク⇒下落、の動きとなった。先週の高値である85円台後半は(1)上記週足でのポイント、(2)94.99円と76.25円の半値の85.62円、(3)2010年9月17日戻り高値85.94円、等の重要チャートポイントが密集しており、超えるとしても手こずりそうなところだ。85.53円を超えても瞬間的な動きとなってすぐに返されて下落となる可能性を感じる。逆に調整的な下落の動きとなる場合は、85.53円から(1)1.50円幅、または(2)2.00円幅の下落が考えられ、(1)の場合は84.00円、(2)の場合は83.50円を見ると考えられる。83.30～86.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 4/4~8の主な推移



4/4 Monday	前週の大幅上昇の反動からクロス円は全般的に売りが先行した。その後、米アトランタ連銀のロックハート総裁が「インフレは緩やかなペースが続く」との見解を示した事を受けて米長期金利の低下とともにドル/円が下落すると、カナダ/円は一段と下落し、86.62円の安値を付けた。(①)
4/6 Wednesday	加3月Ivey購買部協会指数が事前予想の65.0を大きく上回る73.2に上昇した事を受けてカナダドル高が進んだ。さらにNYダウ平均株価が一時2008年6月以来の高水準に上昇した事もあってカナダ/円は89.25円の高値を付けた。(②)
4/7 Thursday	加2月住宅建設許可が前月比で+9.9%と事前予想の+1.3%を大幅に上回った事を好感して、一時89円台を回復する場面もあったが、その後宮城県沖でM7.4の地震が発生し「女川原発で一部電気系統が使用不能」との報道が伝わると、NYダウ平均株価が100ドル近く急落。株価の下落を受けてリスク回避の円買いが強まると、カナダ/円は87.92円まで下落した。(③)
4/8 Friday	アジアから欧州市場にかけて株高が進み、中東・北アフリカ情勢に対する懸念やドル安進行を受けて原油高が進んだ事を背景に、資源国通貨であるカナダドル買いが強まると、カナダ/円は89.49円の高値を付けた。(④)しかし、その後発表された加3月雇用統計で、失業率は予想通りの7.7%となったものの、雇用者ネット変化が0.15万人減と、予想(2.80万人増)外の減少となった事を受けてカナダドル売りが強まると、カナダ/円は88.47円まで下落した。

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は86.62円～89.49円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.5%の上昇(カナダドル高・円安)となった。この間、WTI原油先物価格が約4.2%上昇し、2008年9月以来の高水準を記録した事が、資源国通貨であるカナダドルの上昇につながった。また、原油をはじめとする資源価格の上昇が、主要国のインフレを加速させ、早期金融引き締めにつながるとの見方が台頭する中、東日本大震災の影響から日本だけは低金利政策の長期化が余儀なくされるとの思惑が広がっており、円安・カナダドル高が進みやすい地合いにあると言える。こうした中、今週12日には、加中銀(BOC)が政策金利と声明を発表する。今回の会合では、利上げの可能性は低いものの、資源価格の上昇を背景にインフレに対する警戒を強める内容の声明が発表されれば、一段とカナダドル高が進む可能性もある。(神田)

(予想レンジ:87.20～91.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●カナダ/円 4/08週足引値:88.56円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/4/08安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は反落し2010/08/24に安値78.40円を見て、3/10に高値85.58円を見て、3/17に安値77.60円を見て、その後上昇している。

カナダ/円は3/17の安値77.60円から反発上昇している。取引値は20日線(84.46円、4/08)や60日線(83.89円、4/08)、200日線(82.63円、4/08)よりも上値に位置している。ボリンジャーバンドは4/08現在、上限90.04～下限78.87円であり、バンド幅は急拡大している。

先週は直近高値の89.49円を見た。カナダ/円は勢いのある上昇の動きとなっているが、上値トライが失敗したようにはまだ見えず、行きつくところを見極めることとなる。もし、この上昇が90円近辺で終了すれば、ヘッド&ショルダーフォーメーションが完成し、次は77円割れ方向となる。

上値ポイントは90.27円(2009/08高値)であり、下値ポイントは84.46円(20日線、4/08段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/11~14)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/11 (月)	08:50		(日) 2月機械受注 [前月比]	+4.2%	-1.1%
			(日) 2月機械受注 [前年比]	+5.9%	+9.0%
4/12 (火)	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月14日分)	—	—
			(日) 3月マネーストックM2+CD [前年比]	+2.4%	+2.5%
	15:00		(独) 3月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.5%	+0.5%
		(独) 3月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.1%	+2.1%	
	17:30		(英) 2月商品貿易収支	-70.57億GBP	-83.00億GBP
	17:30	◎	(英) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.7%	+0.6%
		◎	(英) 3月消費者物価指数 [前年比]	+4.4%	+4.5%
	17:30		(英) 3月小売物価指数 [前月比]	+1.0%	+0.7%
	18:00	○	(独) 4月ZEW景況感調査	14.1	10.0
	18:00		(ユーロ圏) 4月ZEW景況感調査	31.0	—
	21:30		(加) 2月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.2%	—
	21:30		(加) 2月国際商品貿易	+1億CAD	+8億CAD
	21:30		(米) 3月輸入物価指数 [前月比]	+1.4%	+2.0%
	21:30	○	(米) 2月貿易収支	-463億USD	-443億USD
	22:00	○	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	—
	27:00		(米) 3月月次財政収支	-2225億USD	—
4/13 (水)	17:30	○	(英) 3月失業保険申請件数	-1.02万人	—
		○	(英) 3月失業率	4.5%	—
	18:00		(ユーロ圏) 2月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.3%	+0.7%
		◎	(米) 3月小売売上高 [前月比]	+1.0%	+0.5%
	21:30	◎	(米) 3月小売売上高 [前月比: 除自動車]	+0.7%	+0.7%
	23:00		(米) 2月企業在庫 [前月比]	+0.9%	+0.8%
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
4/14 (木)	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	21:30	◎	(米) 4/9までの週の新規失業保険申請件数	38.2万件	—
		○	(米) 3月生産者物価指数 [前月比]	+1.6%	+1.1%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [コア: 前月比]	+0.2%	+0.2%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [前年比]	+5.6%	+6.3%
	21:30	○	(米) 3月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+1.8%	+1.9%

経済指標カレンダー (4/15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/15	11:00	○	(中) 第1四半期実質GDP [前年比]	+9.8%	+9.4%
(金)	11:00	○	(中) 3月消費者物価指数 [前年比]	+4.9%	+5.2%
	11:00	○	(中) 3月生産者物価指数 [前年比]	+7.2%	+7.2%
	11:00	○	(中) 3月鉱工業生産 [前年比]	+14.9%	+14.0%
	11:00	○	(中) 3月小売売上高 [前年比]	+11.6%	+16.5%
	13:30		(日) 2月鉱工業生産・確報 [前月比]	+0.4%	—
			(日) 2月鉱工業生産・確報 [前年比]	+2.8%	—
	18:00		(ユーロ圏) 3月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.6%	+2.6%
			(ユーロ圏) 2月貿易収支	-148億EUR	—
	21:30	◎	(米) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.5%	+0.5%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.2%	+0.2%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [前年比]	+2.1%	+2.6%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.1%	+1.2%
	21:30	○	(米) 4月ニューヨーク連銀製造業景気指数	17.50	17.80
	22:00	○	(米) 2月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+515億USD	—
		○	(米) 2月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+325億USD	—
	22:15		(米) 3月設備稼働率	76.3%	77.40%
	22:15	◎	(米) 3月鉱工業生産 [前月比]	-0.1%	+0.5%
	22:55	◎	(米) 4月ミシガン大消費者信頼感指数 ・速報値	67.5	69.0

米主要企業決算予定

4/11 Monday	アルコア
4/13 Wednesday	JPモルガン・チェース
4/14 Thursday	グーグル
4/15 Friday	バンク・オブ・アメリカ

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com